

大正時代、それは新聞が  
民衆と政党とともに歩み、  
かつてない発展を遂げ、  
新しい時代を切り開いてゆく  
夢と可能性を広げた、

戦後に至る日本の  
マス・メディアの資本主義的  
体制の確立期であつた。  
その矛盾に満ちた実相を  
我々に伝えてくれる。

この『新聞及新聞記者』は  
新聞を民衆に與へるまでの  
歴史を記録する大正新聞文化功勳者推讃  
大正新聞文化功勳者推讃

『新聞及新聞記者』  
一大正期のジャーナリズム／ジャーナリスト／新聞産業  
君二 謙田原 君孝 正太郎 君吉 祐永 岩山 君吉 治眞根山 君三 碩田上

監修・解題ー土屋 礼子  
全十六巻・別冊

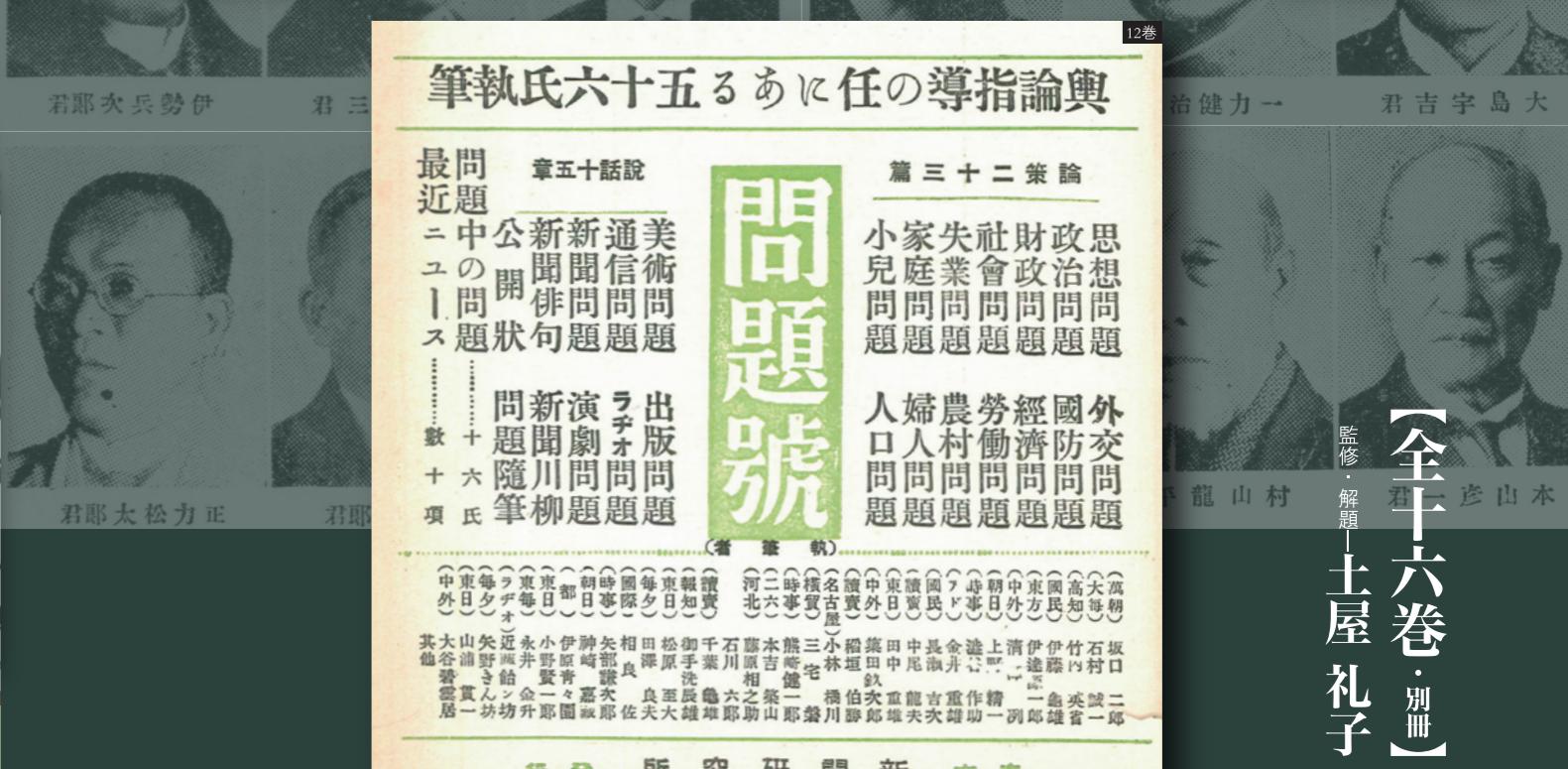
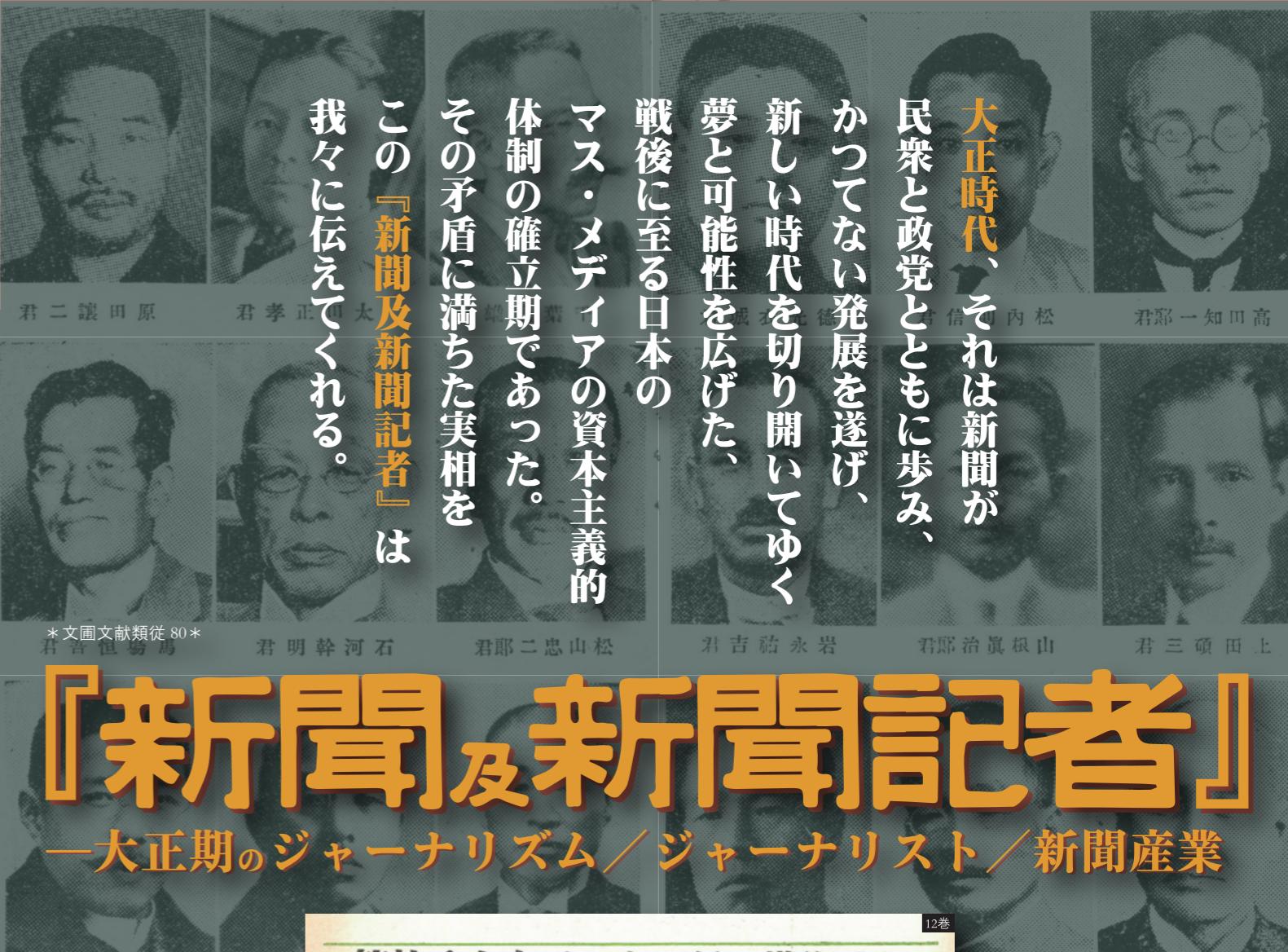
大正時代、それは新聞が  
民衆と政党とともに歩み、  
かつてない発展を遂げ、  
新しい時代を切り開いてゆく  
夢と可能性を広げた、

戦後に至る日本の  
マス・メディアの資本主義的  
体制の確立期であつた。  
その矛盾に満ちた実相を  
我々に伝えてくれる。

この『新聞及新聞記者』は  
新聞を民衆に與へるまでの  
歴史を記録する大正新聞文化功勲者推讃  
大正新聞文化功勳者推讃

『新聞及新聞記者』  
一大正期のジャーナリズム／ジャーナリスト／新聞産業  
君二 謙田原 君孝 正太郎 君吉 祐永 岩山 君吉 治眞根山 君三 碩田上

監修・解題ー土屋 礼子  
全十六巻・別冊



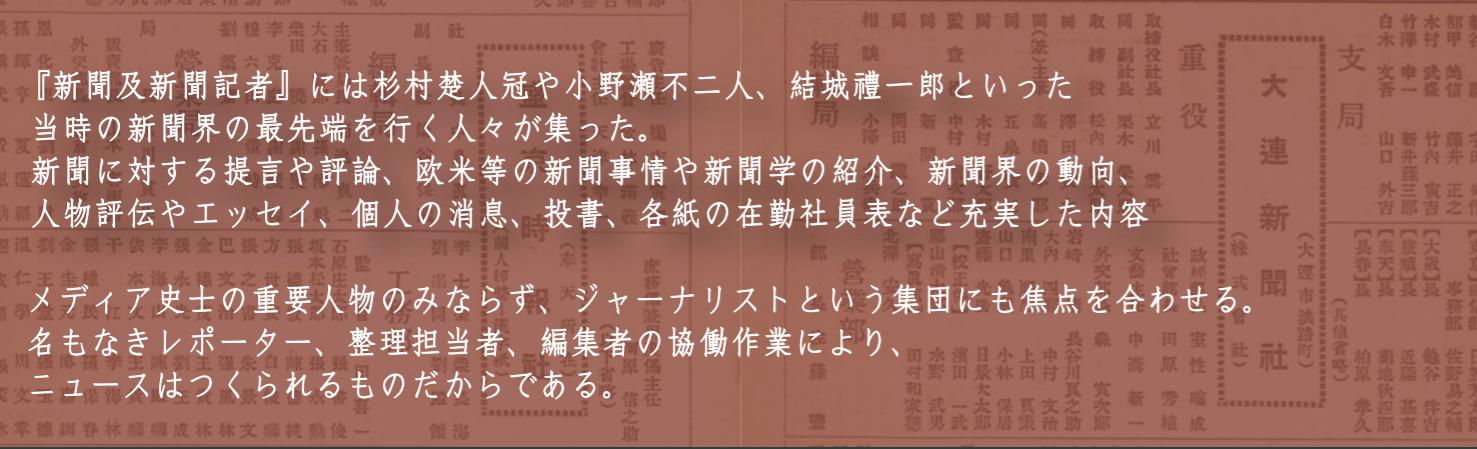
メディア産業に働く人々が書き手となり、読者となり、考えを共有する場としての雑誌。  
新聞業界雑誌はじめての資料集。

金沢文庫閣



関連書のご案内

- 『戦前新聞社・ジャーナリスト事典』  
井川充雄編・解題【全3巻】 創価58,000円  
『日刊新聞時代』—新聞メディア界の新聞』  
井川充雄編・解題【全7・別巻】 創価178,000円  
『戦時末期新聞人名事典一附』日本新聞年鑑1946』  
井川充雄監修【全2巻】 創価40,000円



\*文庫文献類從 80\*

# 『新聞及新聞記者』

一大正期のジャーナリズム／ジャーナリスト／新聞産業

監修・解題ー土屋 礼子（早稲田大学）

推薦ー河崎 吉紀（同志社大学）

本一A5／B5（8巻のみ）判・並製・総約7,000頁

価格一288,000円（配本毎・別冊のみ分売可）

【第1回配本】2021年3月 配本価格36,000円 ISBN978-4-910363-25-7

一巻（372頁）1巻 1号（1号）～2巻 2号（5号）（1920（大正9）年10月～21（大正10）年2月）

二巻（448頁）2巻 3号（6号）～2巻 8号（11号）（1921（大正10）年3～8月）

別冊〔詳細は下記へ〕

【第2回配本】2021年9月 配本価格36,000円 ISBN978-4-910363-26-4

三巻（482頁）2巻 9号（12号）～3巻 2号（16号）（1921（大正10）年10月～22（大正11）年2月）

四巻（459頁）3巻 3号（17号）～3巻 5号（19号）（1922（大正11）年3～6月）

【第3回配本】2022年3月 配本価格54,000円 ISBN978-4-910363-27-1

五巻（476頁）3巻 6号（20号）～4巻 1号（25号）（1922（大正11）年8月～23（大正12）年1月）

六巻（450頁）4巻 2号（26号）～4巻 7号（31号）（1923（大正12）年2～7月）

七巻（442頁）増刊号、4巻 8号（32号）～4巻10号（34号）（1923（大正12）年8～11月）

【第4回配本】2022年9月 配本価格54,000円 ISBN978-4-910363-28-8

八巻（354頁）5巻 1号（35号）～5巻14号（48号）（1924（大正13）年1～7月）

九巻（428頁）5巻15号（49号）～5巻20号（54号）（1924（大正13）年8～11月）

十巻（398頁）5巻21号（55号）～6巻4号（60号）（1924（大正13）年11月～25（大正14）年2月）

【第5回配本】2023年3月 配本価格54,000円 ISBN978-4-910363-29-5

十一巻（440頁）6巻 5号（61号）～6巻12号（68号）（1925（大正14）年3～6月）

十二巻（484頁）6巻13号（69号）～6巻20号（76号）（1925（大正14）年7～11月）

十三巻（474頁）6巻21号（77号）～7巻4号（82号）（1925（大正14）年11月～26（大正15）年2月）

【第6回配本】2023年9月 配本価格54,000円 ISBN978-4-910363-30-1

十四巻（444頁）7巻 5号（83号）～7巻11号（89号）（1926（大正15）年3～6月）

十五巻（418頁）7巻12号（90号）～7巻17号（95号）（1926（大正15）年6～9月）

十六巻（486頁）7巻18号（96号）、7巻19号（97号）（1926（大正15）年10～12月）

別冊詳細=====

（108頁）推薦文・解題・総目次・執筆者名索引 ISBN978-4-910363-31-8 價格 2,000円

# 新聞メディア史のみならず 経済・経営・広告・思想史にも広く貢献

河崎 吉紀（かわさき よしのり）同志社大学社会学部メディア学科教授

私から見て、『新聞及新聞記者』の魅力は、「名もなき」新聞記者の声を数多く掲載していることである。メディア産業に働く人々が書き手となり、読者となり、考えを共有する場となっている。この名もなき新聞記者の登場とは、すなわち産業としての成長の裏返しにほかならない。後世、伝記に取り上げるにいたらない膨大な数の新聞記者が、新聞社を社員として支えるようになり、業界誌を成立させるに足る需要を生み出したのである。

著名な新聞人や新聞経営者については、伝記としてこれまで数多くの研究がまとめられてきた。一方、職業としての「新聞記者」研究は相対的に遅れがちである。『新聞及新聞記者』を復刻する意義は、資料に乏しい業界人の営みを、労働社会学や産業社会学の観点から分析する可能性を広げることである。もちろん、思想史にも寄与することは間違いない。自由民権期の大記者や、戦時下において弾圧に抵抗したジャーナリストだけでなく、地道に取材・編集活動に従事し、組織のなかで活躍する新聞記者の思想に焦点を合わせることができるだろう。

加えて、新聞産業の規模の拡大は、当然、経営者を執筆者から分離し、企業として新聞社を捉える視点をもたらす。私にとって、この雑誌のタイトルが『新聞記者』ではなく、『新聞及新聞記者』となっているのは、そこに純粋な経営者が含まれるからのように思えてならない。この雑誌には販売に関する事、経営に関する事、広告の統計表などが掲載されている。したがって、広く経済史、経営史、広告史にも貢献するものと期待できる。

資料に乏しいメディア業界人の営みを、  
労働社会学や産業社会学の観点から分析する可能性を広げる



『新聞及新聞記者』編集・発行人

永代 静雄（ながよ・しずお 1886~1944）

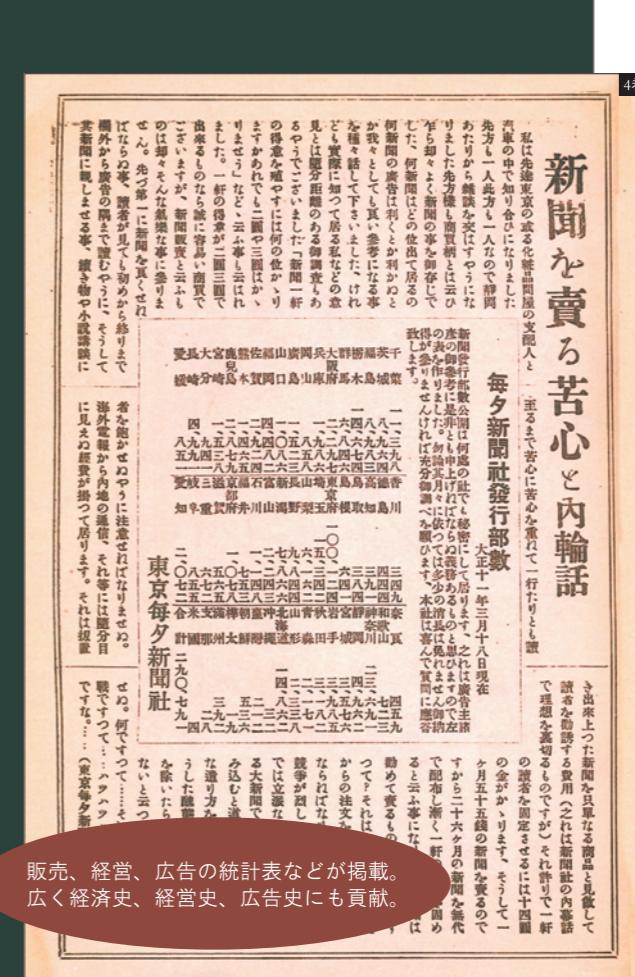
文学作品を発表する一方で、新聞雑誌の編集部で働くという、いわゆる二足のわらじを履いた文学青年。兵庫県生、関西学院本科、同志社普通校を経て、早稻田大学予科へ入り、雑誌『新声』などに作品を掲載。近代日本文学最初の私小説と言われる田山花袋の「蒲団」（1907発表）のモデル。1908年『不思議の国のアリス』（原作ルイス・キャロル）の翻案を『少女の友』に発表。

- 1908 『東京毎日新聞』入社、その後『中央新聞』『富山日報』に移籍
- 1911 大阪『帝国新聞』創刊に参加
- 1912 『東京毎夕新聞』入社（14年には社会部長）、『アリス物語』（紅葉堂書店）刊行
- 1916 大判雑誌『イーグル』創刊（イーグル社創業）
- 1920 『東京毎夕新聞』辞任し、『新聞及新聞記者』を創刊
- 1922 新聞及新聞記者社を新聞研究所と改称、京橋区南鍋町に事務所設置。新聞内報『日刊 新聞研究所報』を創刊。
- 1935 『普鳩』（中央普鳩会）創刊、「鳩に関する唯一の雑誌」
- 1940 新聞研究所、情報局より解散を命ぜられる。
- 1942 大東亜伝書鳩総連盟を設立
- 1944 腸チフスにより陸軍軍医学校にて没。

「永代静雄略年表」より



(説書) 平井 満壽子



販売、経営、広告の統計表などが掲載。  
広く経済史、経営史、広告史にも貢献。

欄「介紹刊新」の聞新  
筆執氏九……觀「介紹刊新」の者任擔介紹刊新(1)  
筆執氏九……望希のてし者讀般一び及者著(2)  
筆執氏十……望希のへ介紹刊新りよ者業版出(3)

## (一) 新刊紹介擔任者の「新刊紹介」觀

其主張を提

内容を提

東日

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

ると云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

16卷

62

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

17卷

63

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

18卷

64

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

19卷

65

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

20卷

66

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

21卷

67

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

22卷

68

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

23卷

69

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

24卷

70

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

25卷

71

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云ふことすら

十脚に來る新刊

から、然後既味し

26卷

72

新刊紹介をうけ

未だ僅にかな

感の二を半價に

仕事と名のつく

論理的或は藝術的

とは、現の組織から

のでないが、自分

と云